

## 診療情報システム導入に関する 北海道医師会会員の意識調査

札幌医科大学附属病院機器診断部 三谷正信

北海道医師会は、昨年1月下記のような目的で会員アンケート調査を行った。このたび、集計・解析をご担当いただいた札幌医科大学附属病院機器診断部 三谷先生から報告書をご提出いただいたので、誌上報告することとした。

この種のアンケート調査としては近年にない高い回収率を得ることができ、こうして結果をまとめることができたのは、会員各位のご協力と、解析の労をお取りいただいた三谷先生のお力によるものと心から感謝を申し上げる。

なお、この調査結果の一部は、三谷先生が昨年6月札幌で開催の第26回日本プライマリ・ケア学会のシンポジウム「電子カルテは医療の現場でどのように役に立つのか」で発表した。

北海道医師会情報広報部（旧情報政策部）

近年あらゆる分野での情報化が進む中、医療分野においても様々な取り組みが始まっている。北海道医師会では、平成15年1月に、北海道の医師会会員を対象に、電子カルテを始めとする診療情報システムの導入、あるいは導入後の運用についてどのような意識をもっているかというアンケート調査を行った。本稿ではそれらの集計結果の中から電子カルテについて報告する。

### アンケートの対象および方法

調査対象は、北海道医師会会員のうちA、B1会員（医療機関の管理者）全員で、総数3,194人とした。調査方法は、郵送による無記名アンケートの形式で行い、調査期間は平成15年1月17日から平成15年1月30日の2週間とした。

調査内容は、以下のI～Vである。

#### I 調査対象医療機関の基本情報

- 1) 医療機関区分（病院、有床診療所、無床診療所、その他）
- 2) 開設者（国立、道立、市町村立、公的、民間）
- 3) 所在地（道南、道央1、道央2、道北、オホーツク、十勝、釧路・根室）
- 4) 病床数（1-19、20-200、201-400、

400以上）

- 5) 標榜診療科

#### II 診療情報システムの導入状況に関して

下記の1)～4)のそれぞれに該当するa～dの項目について

- 1) 電子カルテシステム
- 2) レセプト電算処理システム
- 3) オーダリングシステム
- 4) 医用画像管理システム（PACS等）
  - a 稼働中の場合：開始時期、メーカー名
  - b 開発中の場合：稼働開始時期、メーカー名
  - c 導入検討中の場合：導入目標時期
  - d 予定なし

#### III 電子カルテに期待するもの（複数回答可）

- 1) 診療支援
- 2) 診療録の保存管理の効率化
- 3) 患者サービスの向上
- 4) 医療施設間連携
- 5) 臨床データベースとしての有効利用
- 6) その他

#### IV 診療情報システムの導入し際しての問題点・障害等（複数回答可）

〔電子カルテ、レセプト電算処理システム、オー

ダリングシステム、医用画像管理システム (PACS等) の各項目毎に回答]

- 1) 問題がない
- 2) 導入費用が高額である
- 3) 適切なシステムを選択する基準がない
- 4) メンテナンスに費用がかかる
- 5) 情報セキュリティーが心配である
- 6) 職員の理解が得られない
- 7) コンピュータの分かる職員が得難い
- 8) 使いこなす自信がない
- 9) その他

V 電子カルテ、各種業務システムのコンピュータ化についての意見

結果

対象とした地域区分と対象医療機関数(客体数)および回答数を図1に示す。今回の調査の地域区分は第2次保健医療圏を基に策定したが、医療機関が集中している「道央」については、札幌市を「道央1」それ以外の道央を「道央2」として集計した。回答数(率)は全体で1,589(49.7%)と約半数の回答があった。地域別の回答数(率)は、道南が171(49.1%)、道央1が631(52.9%)、道央2が329(39.8%)、道北が214(55.7%)、オホーツクが64(47.4%)、十勝が97(55.4%)、釧路・根室が74(56.1%)となっており、道央2の地域が39.8%とやや低率であった。

施設別の回答数(率)は、病院が351

(57.2%)、有床診療所が327(40.4%)、無床診療所が899(52.3%)、その他が51(23.5%)となっており、無床診療所の回答率が40.4%とやや低率であった。

電子カルテが稼働中の施設の内訳を図2に示す。平成15年1月時点で84施設(5.3%)において電子カルテが稼働している。地域別では、道南が7施設、道央1が42施設、道央2が14施設、道北が6施設、オホーツクが2施設、十勝が9施設、釧路・根室が4施設であった(図3)。施設数からみると、札幌市の道央1が最も多くなっているが、比率からみると十勝が5.1%と最も高率であった。施設区分では、病院が5施設(1.4%)、有床診療所が13施設(3.9%)、無床診療所が66施設(7.3%)であった。

電子カルテの種類は、15種類(2施設で無記名)で、2つのベンダーのシステムがそれぞれ22施設、20施設と全体の半数を占めていた。診療科別では、内科が55(44.7%)、外科が13

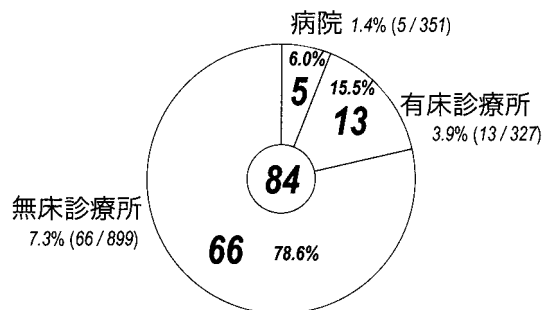


図2. 電子カルテ稼働中の施設数

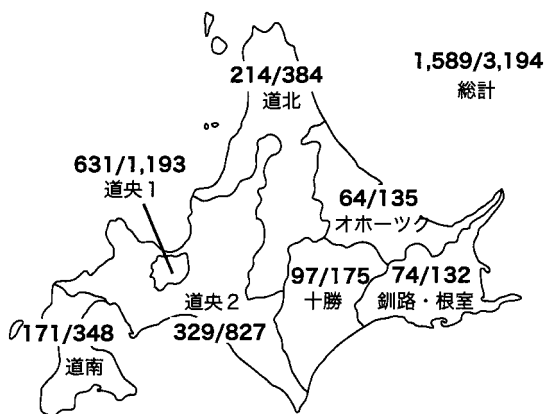


図1. 所在地別客体数および回答数

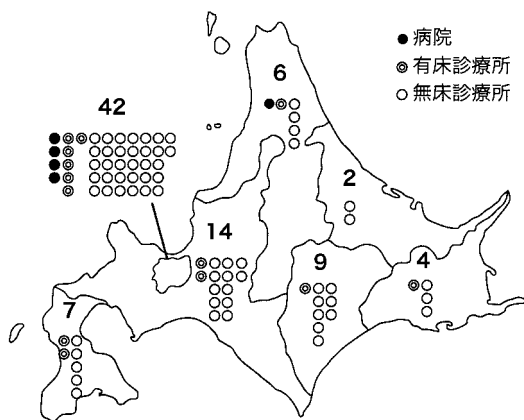


図3. 電子カルテ稼働施設

(10.6%)、整形外科、小児科が11 (8.9%)、皮膚泌尿器科が8 (6.5%)、耳鼻咽喉科が6 (4.9%)、産婦人科が5 (4.1%)、精神科・神経科が4 (3.3%)、眼科が2 (1.6%)、その他が8 (6.5%)であった(%)は84施設123診療科に対する割合である)。

今後の電子カルテの導入については、現在開発中の施設が11 (0.7%)、数年以内の導入を検討している施設が248 (15.6%)、導入の予定ないと回答した施設が1,242 (78.4%)であった(図4)。医療機関区分別では、病院は29.3%の施設で数年以内に導入を検討しているのに対して有床診療所・無床診療所はそれぞれ13.8%、11.1%とやや消極的な結果であった。

「電子カルテへの期待する役割はなにか」との問いについては、最も多かったのは“診療録の保存管理の効率化”で、1,056 (66.5%)施設の管理者が回答していた。次いで“患者サービスの向上”が519 (32.7%)、“診療支援”が468 (29.5%)、“臨床データベースとしての有効利用”が466 (29.3%)、“医療施設間連携”が393 (24.7%)であった。その他に、“事務処理の合理化”が4施設、“経営分析・経営管理に対して”が4施設、“医療費の削減”が2施設で挙げられていた。一方、“期待していない・必要がない”との回答が21 (1.3%)施設あった(図5)。

電子カルテの導入・運用維持での問題点・障害等については、“問題がない”との回答が108 (6.8%)施設あった。それに対して“導入費用が高額である”との回答が973 (61.2%)、“メンテナンスに費用がかかる”が471 (29.6%)と“導

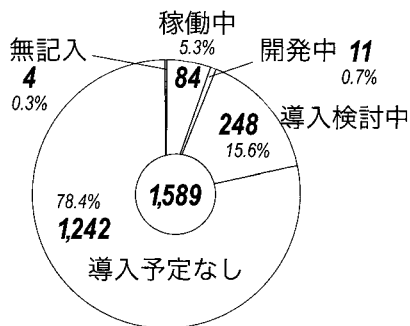


図4. 電子カルテ導入について

入・維持の費用が障害になっている”との回答が多く認められた。次いで、“適切なシステムを選択する基準がない”425 (26.7%)、“使いこなす自信がない”が424 (26.7%)、“情報のセキュリティが心配である”が414 (26.1%)、“コンピュータの分かる職員がいない”が286 (18.0%)、“職員の理解が得られない”が138 (8.7%)であった。その他には、“入力操作に時間がかかり患者の顔を見る時間が少なくなる・診察人数が減少する”との回答が26、“種々の診療科に適切なソフトウェアがない”が15、“以前のデータの再利用ができない”が4、“画像情報との連携ができない”が4であった(図6)。

### まとめ

今回のアンケートの回答率が全体で49.7%と高率であったことから、電子カルテをはじめとする診療情報システムについて関心が高いことが分かった。しかし、全体の78.2%の施設で電子カルテの導入の予定がないと回答しており、導入には消極的な傾向が見られる。国が公開している保健医療分野の情報化に向けてのグランドデザインの中

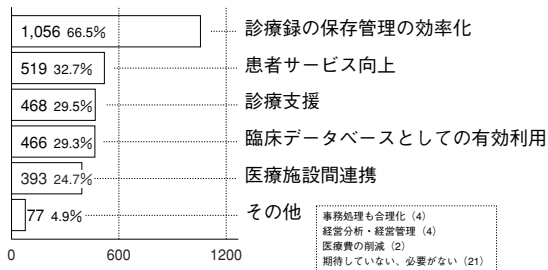


図5. 電子カルテに期待する役割

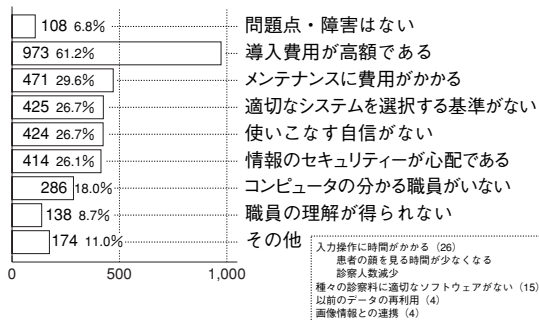


図6. 電子カルテ導入に際しての問題点・障害等

で、医療情報システム構築のための達成目標が設定されている。それによると、電子カルテは平成16年度までに全国の二次医療圏毎に少なくとも1施設、平成18年度までに全国の400床以上の病院の6割以上、全診療所の6割以上に普及を目標としている。しかし、今回のアンケートでの結果からみると、北海道に関しては達成は厳しいと思われる。回答項目の中で、約60%の施設において導入に際しての費用が高いことを挙げ、システムの選択基準、セキュリティ、医師を含めた利用者側の能力の問題等をそれぞれ約20~30%の施設で挙

げていた。確かに、導入に際しては重大な問題ばかりではあるが、多くは解決可能な問題ではある。診療内容を情報化しそれを効率よく運用することは、医療をする側もされる側も大きな利益があるはずである。電子カルテによりどのようなことが可能になるのか、どのような利点があるのかについて今一度整理し、利用可能な範囲内で効果的な活用方法を検討する時期であると思われる。

なお、本アンケートの詳細な内容と分析結果は、北海道医師会ホームページに掲載されている。

## お知らせ

### 「ピカソ展－幻のジャクリーヌコレクション」の開催について

北海道文化放送、北海道新聞社と北海道立近代美術館との共催による「ピカソ展－幻のジャクリーヌコレクション」が、来る7月19日(月)から8月29日(日)の期間、北海道立近代美術館を会場として、下記のとおり開催されます。

今回の「ピカソ展」では、油彩約50点、素描約70点、彫刻等が出展されます。

これら作品は、パブロ・ピカソ没後、夫人・ジャクリーヌ・ピカソが相続、現在は娘・カトリーヌ・ウタン・ブレイに遺贈、管理されておりますが、相続税対策からコレクションの整理が行われているとのことです。

今回、開催される展覧会は、「ジャクリーヌコレクション」の名前を冠する世界で初めての展覧会とのことでありますので、お知らせします。

記

1. 会期：平成16年7月19日(月)から8月29日(日)
2. 会場：北海道立近代美術館（札幌市中央区北1条西17丁目 電話011-644-6881）
3. 開館時間：午前9時30分から午後5時（入場は午後4時30分まで）  
ただし、会期中の金曜日は午前9時30分から午後7時30分（入場は午後7時まで）、休館日は月曜日（7月19日を除く）
4. 観覧料：一般1200円（前売り・団体1000円）、高大生700円（同600円）、小中生500円（同400円）
5. お問い合わせ：北海道新聞社事業局文化事業グループ 電話011-210-5731

### 北海道医報ファイルの送付について

北海道医師会広報部では、北海道医報を整理・保存するためのファイルを作成しております。ご希望の向きは下記までご連絡下さい。無償にてお送りいたします。

記

申込先：北海道医師会事業第二課

〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目  
TEL(011)231-1725 FAX(011)252-3233